

ネパールと福島の子供たちの交流による復興未来づくり

- エネルギーハーベスト技術を活用した適正技術の実装 -

早稲田大学理工学術院 師岡慎一 / いわきおてんとSUN企業組合

研究・活動の目的と概要

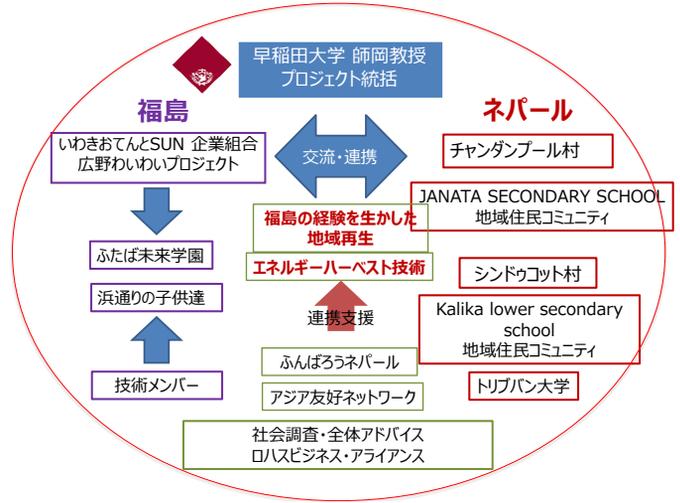
プロジェクト全体をSDGsと関連づけつつ、被災地の地域再生の課題を解決するため下記研究活動を行う

- ① エネルギーハーベスト(環境発電)の適正技術化に向け指導・移転を交流を通じて行う
- ② 国を超えた子供や多世代の交流の有効性を明らかにする



7クリーンエネルギー 9産業と技術革新の基盤(グリーンインフラ) 1貧困をなくす 4教育 10平等 17パートナーシップ

研究・活動の実施体制



活動の内容と成果

エネルギーハーベスト技術移転

1. 講習、設置用太陽光パネルの制作(菊田小学校)



2. 子供たちが自作したソーラーLEDの灯り



福島の実験を生かした地域再生に向けての商品開発

1. 福島コットン、ネパール イラクサ ロクタ紙のランプシェード



2. 現地で購入希望が相次いだオリジナル技術指導用キット



福島の実験をネパール震災復興とSDGsに連携させる

1. クリーンエネルギー ジェンダー 教育



2. 持続可能な農業 パートナーシップ



2ndStage目標と成果

1. エネルギーハーベスト技術移転ムスレ村での女性チームの立ち上げ、2名の若者の育成が出来た。
2. 福島と学校との連携 互いが手作りによりエネルギーを学び、メッセージを自主的に交換すようになった。
3. 新たにケア・ハウスでの職業訓練施設構想、ネパール国農業開発省との連携が可能となった。

今後の展開

1. **支援から協働への発展**：3年間の活動を通じて福島イノベーションコースト構想に沿った、環境教育と国際感覚を養う事業として評価を得、予算確保に動いている。ネパール側とは現地村々とカウンターパートナーとの信頼関係が強固なものとなり、村人からの自立の声もあり、支援から協働連携に向け活動をシフト、継続する。
2. **研究・活動からのSDGsへの貢献**：孤児院での職業訓練校構想の他、ネパール農業開発省との事業協力体制が出来たことにより、山村部貧困対策のブルーベリー栽培指導が立ち上がることになり、福島の実験をネパールに繋ぐSDGs活動として展開を図る。